



＊第28回＊ 楠本由希子

朝日放送

放送業界の技術進歩に 向き合って

現在私は、朝日放送の制作技術センターポスプログループという、番組収録や編集を行う部署に所属しています。小さい頃からテレビが大好きで、夢はアナウンサーになることでした。しかし、結局違う形で入社することとなりました…。

私の理系生活

なぜ理系に進んだのかというと、数学が大好きで国語が大嫌いだったからです。特に現代文というものが苦手で、一刻も早く答えのはっきりしない問題から解き放たれたい、と心から願っていました。逆に数学はとても楽しかったので、高校の進路選択では迷うことなく理系に進みました。

高校では大好きな数学が一気に難しくなりついていけず、普段から努力できない私は浪人生活を余儀なくされました…。この浪人生活は、努力ということ覚え根性も備わった、人生の中で非常に重要な1年だったように思います。

結果めでたく工学部電気系に合格、ほとんど女子のいないキャンパスライフが始まりました。

「リケジョ」という素敵な言葉がない当時、電気系に入るような女子と話をしてくれる男子学生などほとんどおらず、女子がいないというよりも友達が



入社直後に更新された第2リニア編集室にて

いない一人ぼっちのキャンパスライフを過ごすことで、心が強くなりました。

3年生になってようやく男子学生とも溶け込めるようになり、地味とはいえない楽しい学生生活を送っていた頃、東京のキー局2社から技術採用募集のDMが送られてきました。進級するだけでも精一杯の私が、大学院に行っても意味があるのだろうか…と思い、アナウンサーではないもののテレビ局の入社試験を受けることにしました。

結局キー局は落ちてしまったのですが、その後めでたく朝日放送に技術で採用していただきました。

4年生になって配属された研究室の先生によるご配慮で、OFDM (Orthogonal Frequency Division Multiplexing : 直交

周波数分割多重)に関する研究をさせていただきました。

放送局で何をしたいのか特に考えていなかった私ですが、研究を進める中で通信方式の勉強をさせていただいたので、せっかくならその勉強を活かしたい!とマスター(放送として送り出す部署)配属を希望するようになりました。

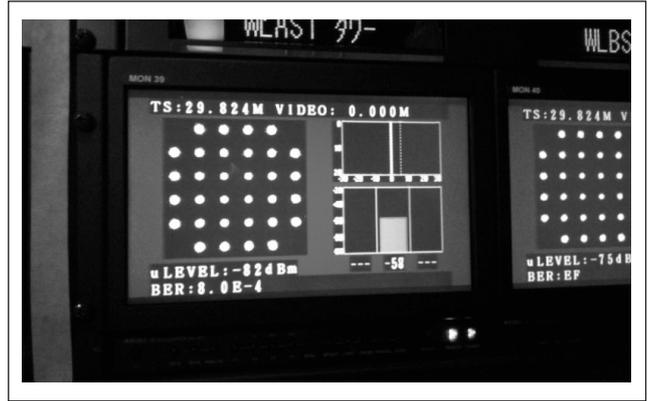
余談ですが、先生方からいただいたありがたき教えの一つに「技術職であるならば学会には入会すべし」というのがありました。この教えだけは当会会員となることで、しっかり実践しています。

↑朝日放送株式会社 制作技術センター
"Tackling with the Progress of Broadcast Technologies" by Yukiko Kusumoto (Production Engineering Center, Asahi Broadcasting Corporation, Osaka)





中継車にてワイヤレス受信コントロールなどのセッティング中



32QAMのコンスタレーション監視中
初めて大学の勉強が実戦に活かされました。

放送局での技術の仕事

マスター希望で入社したのですが配属されたのは録画部(ポスプロ)でした。当時朝日放送にはもう一人技術の女性社員がおり、その先輩も録画部でした。女同士の相談も気軽にできたこともあり、社会人生活が思いがけず楽しくスタートできたことを会社にも先輩にも感謝しています。

新入社員の私がまず驚いたのが、当時まだ残っていた1インチVTRテープでした。カセットにも入っていないテープに指を引っ掛けながらVTRにテープをセットしていくのです。市販のビデオテープでもカセットに入っているというのに、テレビの放送に使う大切なテープが丸出しなんて！それに、テロップ装置といい、黒の厚紙に白で文字が書かれているカードを装置に装填し、その信号をもとにテレビ画面にスーパーするのです。あまりのアナログ感に驚愕しました。

数年後、女性技術職の先輩が総合職へ異動され、ただ1人の技術女性社員となってしまった私は、総合職へ異動希望を出そうか悩みました。テレビ局はどうしても総合職が華やかで技術職は地味に見えてしまうものです。

そんな時、私に大きな影響を与えることになる先輩が録画部へ異動されてきました。あまりにも映像技術を知らない私に根気よく勉強テーマを出し続

けてくれ、今後は映像技術だけでなくパソコンにも精通するべきだと、故障したパソコンをどこからか毎日見つけてきて修理をするようにいわれ、私は修理を繰り返す日々が続きました。嫌々ながら何とか課題をこなしていた私は、ふと気がつくとも家でもパソコンを自作し、日本橋の電気街に行ってお店の方やコアな方々と話しをしつつジャンク品をあさり、技術女子であることを存分に楽しんでいました。

会社でも、電子テロップシステム構築という大きな案件を任せられ、メーカー選定から技術要件の洗い出しなど、本当に楽しい仕事をさせてもらいました。

その当時は社内をベースバンド信号でつなぎ各サブへ分配するという、アメリカ製の機材を使用していました。とても故障が多くて愛着がわいていましたが、とうとうサーバから各サブで同じ素材が送出できるという仕組みに変わりました。

今では当たり前なシステムですが、非常に便利になり加速度的に番組スパーが増えたと思います。

その後、デジアサというデジタルコンテンツ系の関連会社が立ち上がることになり、出向させていただきました。

今までとは違った視点から仕事を見ることができ、いい経験ができたと思っています。ただデジタルコンテンツには非常に疎く、必死で映像をエンコードして携帯用サイトにUPし、異なる

機種種の携帯をたくさん並べてチェックする毎日を送っていました。

またショッピングサイトを立ち上げることができ、番組で紹介した商品をWEBでポチ購入していただけるようになりました。

その後、新システムに入れ替えたこと聞いていますが、何もないところから立ち上げることの難しさと楽しさは、技術職だからこそ味わえるものだと思います。

そしてようやく、番組制作現場である制作技術センターVEグループに異動することができました。編集の仕事をし始めてから抱いていた「番組制作現場に行ってみよう」という希望が叶いました。

現場の仕事は本当に楽しくて、特にスイッチャをさせていただいている時間は、人生の中でこんなに集中することがあったらどうか…と思うくらい集中しないとできない仕事で、貴重な経験をさせていただきました。

しかし考えていた以上に力の必要な仕事が多く、機材積み込みや中継現場のセッティングでは、本当に屈強な方々に助けていただきました。初めて女性だからこそその辛さにぶち当たった気がします。

周りに助けていただきながらゴルフ中継などの仕事にも出掛けました。ワイヤレスカメラで使用する電波周りの管理を担当し、初めて大学の勉強が役



ハイタワー上からはゴルフ場が見渡せ気持ちいいですが、日焼けには要注意です。



昨年8月に高校野球の4K中継を行った際、スーパー送出の応援で久々の現場へ。

に立ちました。

本当はもう少し現場の仕事に携わっていたかったものの、体調を崩したのをきっかけに、ポスプロチームへ戻ることとなりました。

お世話になっていた古巣ですのである程度の仕事の流れはわかっていると自負していたのですが、思った以上にファイル化が進んでおり日々勉強に追

われています。

以前はほぼリニア編集だったのがほとんどノンリニア中心の編集に変わりました。ノンリニア編集機の価格が一気に下がっていて、数千万円していたものが今や数十万～数百万円と完全に桁が変わり購入しやすくなりました。

ノンリニア作業が中心となったことから、テロップやエフェクトを作成す

るソフトを使用しやすい環境となり、多種多様な映像表現が可能となりました。現在はまだテープ納品が主流ですのでリニア編集機も必要だと考えているものの、すでに番組の収録は主にサーバで行われており、いずれテープは消え行く運命に立たされています。すべての素材受け渡しはファイルになる近い将来に向けてどのように進めていけばいいのか…など技術の進化に合わせた対応を求められています。

現在私は、ファイルライブラリーシステム構築のプロジェクトに参加させてもらっています。まずはそのシステムに投入する素材を、テープからファイル化する仕組みを現在構築中です。次期ライブラリーシステムはファイル化のメリットを存分に生かし、メディアから解放された便利さを兼ね備えたシステムとなる予定で、そのでき上がりを密かに楽しみにしているところです。

学生のみなさんへ

日々の技術進歩を感じることは嬉しくもあり勉強することが多すぎて辛くもありますが、そんな中で「自分にできることは何なのか」いつも考えるのですが、入社して〇年、いまだに答えが出たことはありません。それでも自信を持って言えることは、仕事が楽しいということ、そして「リケジョ」になってよかったということです。

今後は朝日放送にも女性技術社員をもっと採用していただいて、一度は女性ならではのシステムを作ってみたいと思っています。

女子学生のみなさんはもちろん男子学生のみなさんも、テレビ局の技術に興味ある方はぜひ、朝日放送にも関心を寄せてもらえるとうれしいです。よろしく願います！

(2016年1月29日受付)